

かめだより

発行：医療法人鉄蕉会 亀田総合病院/地域医療支援部・地域医療連携室
発行責任者：亀田信介 編集責任者：唐鎌房子

〒296-8602 千葉県鴨川市東町929

TEL：04-7099-1261(内線7156)



index

- P2 … 看護部 認定看護師のご紹介
地域医療連携と亀田スマートホスピタル構想
～ ICT の利活用が地域医療を変える ～
- P3 … 継続学習センターのご紹介
- P4 … 地域医療機関さまより
- P5 … 当院診療科より
- P6 … 高次脳機能障害支援普及事業って何?
- P7 … スタッフひろば
マイブーム
- P8 … トピックス 勉強会・研修会スケジュール

看護部 認定看護師のご紹介



「患者さまとご家族と医療者との対話を大切に」

急性・重症患者看護専門看護師 飯塚 裕美

1. 急性・重症患者看護専門看護師の役割

急性・重症患者看護専門看護師は、緊急度や重症度の高い患者さまに対して集中的な看護を提供し、患者さま本人とご家族への支援、医療スタッフ間の調整などを行い、最善の医療が提供されるよう支援しています。

2. 集中治療室でのご家族の思い

集中治療室での治療を受けている患者さまは、状態が悪化していたり、治療のために鎮静をしていたりと自分の意志を伝えられない場合もあります。その時のご家族の意向は、誰もが“やれることはなんでもやってほしい”という思いです。医療者も同じ思いであり、患者さまが元気に社会復帰できることを目標に全力を尽くしています。しかし、今の最先端医療でも救命できない状況もあり、ご家族の想像を超える多くの医療機器に囲まれた患者さまの状態を目の前に、ご家族は、“もう苦しくないようにしてほしい”と思いが変化する場合も少なくありません。

3. 患者さまにとっての最善の治療

治療方針の決定は、患者さま本人の意向を尊重すること

が前提です。しかし、患者さま本人が治療に関する意向を述べられない場合、治療に関する意思決定は、ご家族が代理意思決定者として、医療者と共に行います。ご家族は、医師から患者さまの良い知らせだけではなく、時には辛い知らせを聞くこともあり、難しい決断に直面することがあります。そのような時に、私たちは、ご家族の揺れ動く思いに寄りそい、患者さまの推定意志をもとに、ご本人の意志が尊重されるように、繰り返し話し合いを行います。そして、苦痛を軽減し、患者さまにとっての最善の治療目標に向かって、患者さまとご家族をサポートします。

4. 患者さまとご家族と医療者との対話

集中治療室において、最期までどのように過ごしたいか、どのような治療を望むかなど患者さまの推定意思が不確かなことも多い中で、患者さまの意思を尊重した意思決定に向けて、ご家族と共に苦悩することがあります。そのため、普段から「もしもの時」に備えて、患者さまとご家族と医療者で対話を重ねることが重要と考えます。そして、私たちは、何回かの対話の中で、患者さまの大切にしていること、価値観、好み、思い、そして、どのように生きていきたいかを一緒に確認していきたいと思っています。ぜひ、患者さまの人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）に、ご家族だけではなく、医療者も参加させていただき、一緒に対話していきたいと思っています。

地域医療連携と亀田スマートホスピタル構想

～ ICTの利活用が地域医療を変える ～

シリーズ-2：電子カルテの更新と患者さまカルテの刷新

鉄蕉会 情報管理本部 本部長 中後 淳

シリーズ-1でお話しした通り、亀田グループでは平成最後の日に亀田総合病院・亀田リハビリテーション病院、令和最初の日に亀田クリニックで電子カルテの更新を実施しました。20年間慣れ親しんできた電子カルテを全く新しい電子カルテに変更することは、今まで使っていたガラケーをスマホに変えるようなもので、どこに何が書いているのか見つけられなかったり、今まで簡単にできていた操

作が分からなくなったりと、時間がかかる要素ばかりで、患者さまにはご迷惑をおかけしたと思います。無事電子カルテの更新はできましたので、これからは新しい操作に慣れることと新しい機能を活用することで、少しずつ改善して前よりも患者さまの満足度が上げられるように取り組みを進めてまいります。

亀田グループでは2002年から患者さま向け電子カルテ



メディカルレポート

継続学習センターのご紹介

医療管理本部研究研修部 継続学習センター長 池谷恭子

継続学習センターは、1992年に亀田総合病院教育部として発足しました。入職時のオリエンテーションを始め、病院職員に必要な教育の担当部署です。病院経営や人事考課と一線を画して「教育」を行う部署で、チーム医療という言葉が浸透していなかった頃から多職種の職員が同じ研修を受けられるように設置された点が特徴です。2002年より教育や研修対象者を広げる目的で医療管理本部研究研修部に組み込まれました。研修の立案・開催、研修報告書作成はもちろんのこと、職員の研修履歴もデータベース管理しています。2018年4月には図書室とフォトセンターも統合され、機能や役割も拡張しました。

外部講師による研修もありますが、心肺蘇生に関するBLS(Basic Life Support)／一次救命処置) 研修やACLS(Advanced Cardiac Life Support)／二次心臓救命処置) 研修、コーチング研修などは院内スタッフが活躍しています。BLS研修は1990年、コーチング研修も2004年に始まりました。職場環境づくり、医療の質向上のためにメンタルヘルスケア研修や接遇研修、倫理講習なども行っています。

また、地域の皆さまを対象としての応急手当講座や介護研修も回を重ねています。特に介護職員研修は、多くの方が資格を取得し、地域貢献に尽力いただいています。

●1994年～2012年

介護員2級養成研修(通算36回)修了者合計1,123名。

●2013年～2018年

介護職員初任者研修(通算6回)修了者合計145名。

●2000年～2004年

介護員1級養成研修(通算5回)修了者合計96名。

●2007年～2012年

全身性障害者移動介護授業者養成研修

(ガイドヘルパー)(通算11回)修了者合計289名。

●2014年～2018年

介護職員等による喀痰吸引等研修

(1号・2号)(通算5回)

修了者合計86名(1号71名 2号15名)。

●2018年から

喀痰吸引指導者養成講習会も開催しています。

●2016年～2018年

福祉用具専門相談員養成講習会

(通算3回)修了者合計53名。

今年度も介護職員初任者研修から始まり、喀痰吸引研修やその指導者講習会、福祉用具専門相談員養成講習会を開催いたします。介護職員等による喀痰吸引等研修は実地研修を快く引き受けて下さる地域の医療機関・介護施設等のご協力、またそこでご指導下さる看護師の皆さまのご援助やご理解なくしては開催出来ません。ご協力いただいている関係機関の皆さまには大変感謝しております。今後も色々な研修を通して地域の皆さまの医療と介護をつなぐお手伝いが出来れば、継続学習センター一同、うれしく思います。

コン限定の古いサービスで、維持することが難しくなっていました。NOBORIは外部のシステム会社が開発したスマートフォンでもパソコンでも閲覧できるシステムです。NOBORIと契約した病院の情報であれば亀田グループ以外の医療機関の情報も同じ画面で見ることができます。

亀田と連携している医療機関がNOBORIと契約すれば、患者さまも一連の情報としてご自身の医療情報を見ることができるようになります。これは地域医療連携を考えると非常に可能性の広がるサービスになると思います。興味のある方はぜひNOBORIに登録してみてください。

今回は医療情報の災害対応や病院間の情報連携を進める「千年カルテ」についてご紹介します。

「PLANET(プラネット)」を提供してきました。PLANETは患者さまがインターネットを通じて自分のカルテを見るシステムです。最近でこそ健康診断の結果や検査結果をインターネットで見られる医療機関はありますが、患者さまが自分のカルテをインターネットで見られる医療機関というのは日本では現在でもほとんど存在していません。医療訴訟のリスクなどを気にする医療機関が多いからなど言われますが、サービス提供開始から17年間でそのような事例は少なくとも亀田では発生していません。

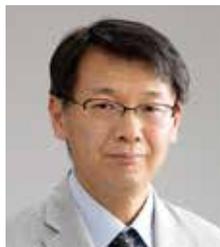
患者さまカルテは亀田にとっては重要なサービスと位置付けていますが、電子カルテの更新で17年間続けてきたPLANETもサービスの見直しをすることになりました。新しい患者さまカルテの名前は「NOBORI(ノボリ)」といます。PLANETは亀田グループが独自開発したパソ



地域医療機関さまより



医療法人社団上総会 山之内病院
院長 武田 将伸



当院は1957(昭和32年)年7月15日に茂原市に開院して以来今日までの間、地域医療を支える医療機能を柱として地域に貢献して参りました。私達は60年間に渡って真摯に医療活動を行ってきた誇りと、今後も地域医療活動を支えてゆく使命感を心に刻んでこれからも励んでいく所存であります。

当院は大学病院から専門医を派遣していただき、内科系疾患を主体に、小児科、外科、整形外科、泌尿器科と幅広くかつ質の高い外来診療活動を行っております。病床は一般・療養・回復期リハビリ病棟を併せ持つケアミックス型の病院です。当院を利用される患者様の多くは急性期を脱した、あるいは慢性期疾患が増悪した、いわゆる亜急性期の患者様が多いですが、多様な病態の急性期の患者様の入院加療も積極的に受け入れております。

当院は、当地域で唯一透析を導入している病院であり、透析センターでは外来維持透析から通院困難な患者様の入院透析も対応しております。一方、予防医学の中核を成す健診センターでは、地域住民、事業所職員の皆様を対象に、人間ドック、脳ドック、特定検診等の健診をしております。

今後も益々需要が増大すると見込まれる介護の分野では、介護老人保健施設ケアセンターかずさを併設し、医療と介護の橋渡しができるよう体制を整えておりま



す。時代の流れと医療ニーズの変化に柔軟に応えることができるよう、今後も体制整備を構築していく所存です。

千葉県は地域住民の皆様が安心して暮らせるように、地域医療構想会議を開催し、自治体や医師会と協調しながら、各医療圏における医療体制整備を進めております。一環として、当院では、急性期治療後のリハビリや、在宅復帰に向けた医療や多職種協同による支援を提供するため、平成31年4月1日より『地域包括ケア病床』を開設いたしました。また、地域の皆様には糖尿病教室等、各種講習会を開催して、開かれた病院を目指してまいります。

これらの地域医療を支えるには、職員一同の一致団結した医療の取り組みが不可欠です。院内保育園の設置や、働き方改革の導入により、労働環境の整備をしつつ、職員の医療知識・技術の向上と社会貢献への意識向上のため、職員研修も積極的に行っております。

これからも地域の皆様に寄り添い、ともに歩む、地域に信頼される病院でありつづけたいとを考えます。

《当院の理念》

仁・智による信頼の医療

仁：他人を大切に思う気持ち、人間愛
智：物事をよく理解する、智慧

人間愛と智慧をもって
地域に信頼される医療を進めて参ります。





当院診療科より

総合周産期母子医療センター
センター長 田嶋 敦



「周産期」とは妊娠してから出産後1ヶ月頃までの時期を指しており、母体、胎児、新生児を担当することになります。「周産期センター」は母児共に健康でより良い経過を送ることを目的とし、産婦人科、新生児科、小児外科により構成されています。

当院の周産期センターは2005年に千葉県で最初に指定を受けた総合周産期母子医療センターです。MFICU(maternal-fetal intensive care unit:母体・胎児集中管理室)6床、NICU(neonatal intensive care unit:新生児集中管理室)9床、LDR(labor delivery recovery:個室分娩室)6床から構成されています。

千葉県内の周産期医療に様々な面で関わっており、母体搬送コーディネイト事業や災害時の周産期医療体制の構築に関わり千葉県全体をリードする立場になっています。診療面では房総半島の南半分における周産期医療に携わっており、ハイリスク妊婦の受入、母体搬送、新生児搬送の受入を行っています。亀田ファミリークリニック館山と連携を密にして、館山方面の妊婦さんの妊婦健診はファミリークリニックでも多く受けて貰える様にしています。

近年は少子化、妊婦の高齢化が顕著で南房総地域も例外ではありません。そのため周産期医療に求められることは多くのお産を担当するということから、細かい妊婦、胎児の問題に関わることに変化してきています。以前から当センターでは母児の生命を守るため、救命救急科をはじめとする様々な診療科と連携して高度な医療

を提供するという役割を担ってきましたが、最近のお産に求められている無痛分娩や出生前診断、助産師外来、産後ケア等にも積極的に取り組んでいます。

無痛分娩

日本産科麻酔科学会が提唱する効果的で安全な無痛分娩を目指しています。痛みの感じ方は人それぞれであり、お産をするためには完全な無痛にはならないことがあります。実際には「無痛」というよりも「和痛」というべき状態となる妊婦さんが多くいます。日本全体で無痛分娩の希望が多くなっていますが、その反面母体死亡を含めた有害事象の報告もされています。当院では安全な無痛分娩を第一に考え取り組んでいますが、現状では全ての妊婦さんに行える状況ではなく、計画分娩の形で対応して頂いています。現在まで重大な有害事象は発生しておりません。

助産師外来

医師による産科外来とは別に、現在は30週と34週に助産師による外来を設けています。妊娠中や産後の様々な相談に時間をかけて助産師が対応することを心掛けています。診療内容に関しては産科医による確認を行い、安全を心掛けています。基本的にはリスクの低い妊婦さんが対象となりますが、医師の許可があれば当院で分娩される妊婦さんは何方でも受診が可能です。

出生前診断

以前よりクアトロテストや羊水検査は行っていましたが、妊娠初期の胎児スクリーニングを導入しております。更に近日中にNIPT(新型出生前診断)も開始する予定です。妊娠中は胎児の状態に関して様々な不安を抱きます。出生前に胎児の状態が全てわかる訳ではありませんが、色々な方法を用いて胎児の状態を観察することで妊婦さんの不安を解消出来る様に心掛けています。臨床遺伝専門医、日本産婦人科専門医、超音波専門医、遺伝カウンセラーが担当致します。

産後の骨盤ケア

産後の尿もれや便もれ、臓器の下垂感などのトラブルは中々言い出しにくいトラブルであり、日本でも実はかなり頻度の高いトラブルとされています。当院では産後の骨盤トラブルを専門とする外科医、助産師、理学療法士のチームで、この様な症状のある患者さまのケアを担当しています。今後、妊娠中からの予防を含めて患者さまのニーズに対応していきたいと考えています。

今後も国内国外の情報を元に、安全で快適な妊娠期間を送れる様に努力していきたいと思えます。妊婦さんも様々なニーズをお持ちだと思います。気軽に産科スタッフの方に声をかけて頂きたいと思えます。

高次脳機能障害 支援普及事業って何？

第2回

高次脳機能障害について

亀田リハビリテーション病院 院長 井合 茂夫

【高次脳機能障害の特徴】

一見した印象は認知症に似ており、記憶障害が目立ちますが、「何らかの原因」があって「人生の途中で」障害を受け、「改善の見込みがある」のが認知症と異なります。また他人が見ても、自分から見ても「障害が見えない(よく分からない)」のも大きな特徴とされています。

【高次脳機能障害の原因】

病気やけが(外傷)などの原因から身体の働き(機能)に種々の不具合が発生するのを機能障害と呼びます。脳卒中などが原因となり言語障害や歩行障害を起こす訳ですが、逆に障害の原因が一種類とは限りません。高次脳機能障害の原因で多いのは頭部外傷ですが、脳卒中や、窒息溺水、薬物の問題からも発生します。原因が何でも、脳に大きな損傷が加わると高次脳機能障害は起こりうると考えられます。

脳の特定の部位にダメージが加わると対応する特異的な症状が発生することが解っていて、例えば左前頭葉の一部が損傷すると言語障害となります。ところが高次脳機能障害では厳密な病巣を特定するのが難しいことが多いのです。一般的に「前頭葉」が広い範囲で傷を受けていることが多いのですが、脳外傷では「脳梁」という左右の脳をつなぐ部位に出血したりします。通常の脳出血で麻痺を伴って起こることもあり、溺水などでは病巣を指摘できない症例もあります。

【高次脳機能障害の診断】

実は高次脳機能障害の診断は簡単ではありません。専門性のある病院に紹介されて初めて診断確定することも珍しくないのです。

重要なのは「病歴」です。脳に悪影響を及ぼす何らかの出来事があった後に、この障害が発生するからです。当人は曖昧で家族や友人からの情報提供が有用です。次に「神経学的診察」を行い麻痺や言語

障害など評価します。高次脳機能障害の主症状は記憶障害・注意障害・遂行機能障害(複雑な行動の計画や順序立てた実施が困難)・社会的行動障害(他人と上手く協調できない)などと言われていますが、「神経心理学的検査(診察)」という特殊な診察法が必須です。記憶障害については認知症に使う知能テストのような検査がありますが、注意障害やその他の障害を詳しく調べるのは非常に難しく、専門性の高い検査が必要です。更に実際に障害されている脳の部位を特定する目的でCTやMRIと呼ばれる画像診断が用いられますが、症例により脳波や脳磁図、PETなどと言う限られた病院でしかできない検査が行われることもあります。最終的な診断は高次脳機能障害に習熟した医師・病院による上記所見の総合的な判断によると考えてください。

【高次脳機能障害の治療】

治療の基本は「生活指導」になります。現時点では直接的に高次脳機能障害に有効な手術や薬剤などの治療法はありません。記憶障害や注意障害に対して作業療法や言語聴覚士による「頭の体操」のような関わりも効果があることが解っていますが、「特效薬」的な治療法は無いのです。寧ろ積極的に「以前の環境に戻り、以前の活動に挑戦する」ことが重要です。病院内のリハビリを早期に卒業して「生活リハビリ」を十分に行うことが大事になります。この障害の重要な特徴に「自分が病気である実感がわからない」状況(病識障害)があります。早期に自宅に戻り家事参加など家庭内生活に「役割を持つ」ことで治療効果が期待されます。つまり高次脳機能障害は「自宅に持ち帰る後遺症」なのです。

【高次脳機能障害の社会参加】

高次脳機能障害の中に「社会的行動障害」が入っています。他人や地域社会と上手に関係性を保つことができず、周囲も(家族も)当人と上手く接することができないことがあります。実は障害のために社会に溶け込めないながらも、社会生活の場面で失敗を重ねながら他人との交流法を学ぶことが「リハビリ効果」があることが解っています。即ち、私たちは患者さまの個性的な障害をよく理解して、その出来るところを伸ばし苦手なところを支援しながら積極的に社会生活に入って貰い、失敗を重ねながら成長して頂くのを見守ることこそが、大きな治療効果があることを強調したいと思います。

スタッフ ひろば

地域医療連携室
メンバーから

今回のご紹介内容

- ・氏名
- ①部署 / 職種
- ②好きなスポーツ
- ③こんなはずじゃなかった、と思うこと



蔵本 浩一

- ①地域医療連携室 室長
診療部 疼痛・緩和ケア科 医師
- ②水泳
- ③毎日ストレッチをしているのに体が柔らかくならない



大川 薫

- ①診療部 在宅診療科,
地域医療支援部 医師
- ②野球(ヤクルトスワローズ)
- ③ヤクルトスワローズが現在 15 連敗で最下位な事



草薙 洋

- ①診療部 消化器外科 医師
- ②サッカー
- ③こんなに長く外科医をやっていること



丸山 祝子

- ①看護管理部 助産師
- ②バレーボール
- ③体重増加…



杉田 登子

- ①地域医療連携室 看護師
- ②武道系全般
- ③未だに看護師やっていることかな?(笑!)



石井 俊一

- ①看護管理部 看護師
- ②軟式テニス
- ③自分が看護師として長く働いていること



打野 弘子

- ①総合相談室 看護師
- ②テニス・野球観戦
- ③方向音痴



吉野 有美子

- ①総合相談室 看護師
- ②ランニング & ウォーキング
- ③通販で注文した洋服



安室 修

- ①薬剤部 薬剤師
- ②相撲・野球
- ③毎日帰るときに時計を見ると思います



鎌田 喜子

- ①総合相談室 MSW
- ②テニス観戦(TV)
- ③カニメシ弁当を買って開けてみると思ったより小さく少なかった



児玉 照光

- ①総合相談室 MSW
- ②卓球の観戦
- ③思ったより早く老化現象がきた



新田 静江

- ①亀田医療大学 教員(看護師)
- ②スキー
- ③物忘れ、庭・畑仕事での腰痛



唐鎌 房子

- ①地域医療支援部 事務
- ②フィギュアスケート観戦
- ③鴨川市民になるとは…



中村 雅代

- ①地域医療連携室 事務
- ②ウォーキング
- ③我が家のアンテナの位置!



林 裕子

- ①地域医療連携室 事務
- ②野球観戦
- ③肩こりがこんなにひどくなるはずじゃあ…



黒川 亜純

- ①地域医療連携室 事務
- ②ウォーキング, 高校スポーツ観戦
- ③運動不足による体力低下



松井 陽

- ①地域医療連携室 事務
- ②バスケットボール
- ③前髪だけに天然パーマが強く残っていること



生稲 秋穂

- ①地域医療連携室 事務
- ②スポーツを観ること
- ③父の死



大橋 洋子

- ①地域医療連携室 事務
- ②ミニバス観戦
- ③取り込んだ洗濯物をたまたま山になっている事が多々ある

亀田総合病院スタッフの マイブーム

「おからパウダー」

ある日何気なく流していたTVから、「何かに混ぜたりして食べるだけで運動したのと同じようなダイエット効果が得られる」という、魅力的なフレーズが耳に飛び込んできた。「一体何!？」と思い耳を傾けると、「おからパウダー」の紹介だった。

ドリンクや料理に入れて食べると、水分を含みお腹の中で膨れて3~5倍くらいになるので満腹感が得られる、また痩せるためのホルモン(?)を増やしてくれて運動したような脂肪燃焼効果が得られるとのことだった。

これは私もやるしかないと思いつき、後日スーパーへおからパウダーを探しに行くもどこも売り切れ状態のため、おからを買って自分で煎ったりしてパウダーにしてみた。家族に「そこまでするならおからを食べればいいじゃないか」と意見をもらいながらもめげずにパウダーにしてコーヒー・スープ・料

理に使ってみた。パウダー自体にそこまでクセが無く、料理の味もそこまで変わらなかった。先に摂取するとある程度お腹が落ち着き、食べる量が少し減ったような気がする。運動したような脂肪燃焼効果はまだまだ実感がないが、いつか効果が出るように継続したい。

今はだいぶ落ち着いたので、スーパーでもおからパウダーをよく見かけるようになったのでまとめ買いをして料理に使うことが多くなった。サラダのトッピングやハンバーグ・ホットケーキにこっそり混ぜて使っている。特にお好み焼きはおからパウダーを混ぜた方が食感が良い気がして、家族からも「今日のはいつもより美味しい!粉を変えた?」と聞かれ、大好評だ。

今後はおからパウダーを使った料理のレパートリーを増やしたい。そして家族と自分の体のためと思い、気軽に手軽に続けていきたい。

Y・O



勉強会・研修会スケジュール

1. 2019年度がん看護基礎コース研修

会場：亀田総合病院 B棟7階 看護部研修室

対象：2年目以上でがん看護に興味のある看護師

(全て参加出来る方には修了証をお渡ししますが、興味のある講義のみの参加も可能です。)

時間：17:45～19:00

※第1回は終了しました

【第2回】7月16日(火)がん看護総論Ⅱ

【第3回】8月20日(火)手術療法と看護

【第4回】9月17日(火)化学療法と看護Ⅰ

【第5回】10月15日(火)化学療法と看護Ⅱ

【第6回】11月19日(火)放射線療法と看護

【第7回】12月17日(火)スピリチュアルケア

【第8回】2020年1月21日(火)緩和ケア

【第9回】2月18日(火)オンコロジック・エマーゼンシー

【第10回】3月17日(火)グループワーク

2. 2019年度がん看護実践コース研修

会場：亀田総合病院 B棟7階 看護部研修室

対象：がん看護経験年数2年目以上で、がん看護に興味のある看護師

時間：17:45～19:00

【第1回】7月2日(火)基本的なコミュニケーションスキルⅠ

【第2回】8月6日(火)基本的なコミュニケーションスキルⅡ

【第3回】9月3日(火)がん患者の意志決定支援の実践

【第4回】10月1日(火)がん患者・家族とのコミュニケーションⅠ

【第5回】11月5日(火)がん患者・家族とのコミュニケーションⅡ

【第6回】12月3日(火)がん患者・家族とのコミュニケーションⅢ

【第7回】2020年1月7日(火)多職種とのコミュニケーション

【第8回】2月4日(火)グループワークⅠ

【第9回】3月3日(火)グループワークⅡ

3. マインドフルネス勉強会

会場：亀田総合病院 Kタワー13階 ホライゾンホール

講師：健康科学大学健康科学部

福祉心理学科 教授 井上ウィマラ先生

対象：医師・看護師・メディカル等

*医療機関にお勤めの方であればご参加頂けます

※第1回は終了しました

【第2回】GRACE：マインドフルネスに基づいた燃えつき防止プログラム

日時：8月31日(土)9:00～16:00

【第3回】マインドフルネスに基づいた事例検討

日時：10月13日(日)9:00～16:00

4. ELNEC-Jちばコアカリキュラム

日時：①9月7日(土)9:00～17:00

②9月8日(日)9:00～17:00

会場：亀田総合病院 B棟7階 看護部研修室

対象者：終末期医療に携わっている医療者 *両日参加出来る方

5. がん化学療法看護コース研修

会場：亀田総合病院 B棟7階 看護部研修室

講師：亀田総合病院 がん化学療法看護認定看護師 北浦寿子

対象：経験年数3年目以上でがん化学療法の患者を受け持った経験があり、学んだ知識・技術を実践に活かしたいと考えている方(全日程参加可能な方推奨)

※第1回は終了しました

【第2回】7月8日(月)17:30～19:00 がん化学療法概論Ⅱ/臨床薬理学, 薬剤情報の活用

【第3回】8月26日(月)

(前半)13:30～15:00 抗がん剤の安全な取り扱い

(後半)15:10～16:30 CVポート管理

【第4回】9月30日(月)17:30～19:00 急性期の副作用対策と対応

【第5回】10月28日(月)17:30～19:00 代表的な副作用とセルフケア支援

【第6回】11月26日(火)

(前半)13:00～15:00 レジメンのアセスメントとセルフケア支援

(後半)15:10～17:00 意思決定支援とチーム医療について

6. 2019年度安房地域勉強会プログラム

会場：安房地域医療センター 2階 会議室

対象：経験年数3年目以上でテーマに興味のある方

【第1回】8月23日(金)18:30～19:30 糖尿病患者のコンプライアンスは悪い？ 本当？ うそ？

【第2回】9月27日(金)18:30～19:30 看護の力で防ぐ誤嚥性肺炎

【第3回】10月25日(金)18:30～19:30 感染対策基本の確認

7. 2019年度夷隅地域勉強会プログラム

会場：塩田病院 B棟10階 講堂

対象：経験年数3年目以上でテーマに興味のある方

【第1回】11月14日(木)18:30～19:30 感染対策基本の確認

【第2回】12月13日(金)18:30～19:30 糖尿病患者のコンプライアンスは悪い？ 本当？ うそ？

【第3回】2020年1月24日(金)18:30～19:30 看護の力で防ぐ誤嚥性肺炎